

- 1 開催日時 平成26年3月17日(月) 10:00~12:00
- 2 会場 都庁第二本庁舎 31階 特別会議室23
- 3 出席者 巽委員長、高野副委員長、善養寺委員、川合委員、柳沢委員、志村委員、田谷委員、徳田委員、加藤秀次委員、丸山委員、浦部委員、武田委員、堤委員、加藤裕之委員、金子委員、出張委員

4 会議要旨

(1) 第2回会議要旨の確認

- ・資料の内容で第2回会議要旨として決定としたい。

(2) 新しい学科及び増設する学科に関する検討

- ・社会的に必要なのは、地場に特化した商店街の活性化を通じた観光まちづくりではないか。商店街の経営を考える人材育成に向け、地域活性観光科のようなものを設置することにより、幅広い就職口が出てくると思う。
- ・防災関係を学科として教える場合、教員の免許状が必要になる。その点を考慮すると、ある程度内容を絞らないと厳しい。
- ・人事のあり方が普通科と同じだと教員の質が低下しかねない。
- ・カリキュラムだけでなく、教える教員の育成も今後の検討課題である。
- ・消防や警察は、小学校のころは憧れている職業だと思う。高校で専門性を身に付けることで、就職だけでなく地域の消防団への入隊にもつながる。
- ・警察や消防の勉強ではなくて、公務員試験の指導に追われてしまう。公務員を出口とする専門学科は、公務員試験のための専門的な指導を行うコースというイメージになる気がする。
- ・国際経済や観光を学んだとしても、卒業後の就職先の確保が難しい。
- ・アニメや漫画の学科は、都立高校として設置する必然性に疑問を感じる。
- ・コンテンツ産業の人材も確かに必要になると思う。
- ・伝統工芸については、新しい学習指導要領の項目に伝統工芸の継承者を育てるという記載が加わった。また、全国的な課題でもある。
- ・観光の学科で日本の伝統文化に触れることなどでも、啓発の機会となる。
- ・25単位以上の専門科目を学んでいる中で、さらに普通科目の学習を減らし第2外国語も学ぶ専門学科を設置することは、非常に難しいと思う。選択科目などで、観光や語学などを盛り込めるかもしれない。
- ・観光とサービスでのグローバル人材を育成するプログラムのなかで、語学や日本の文化伝統、歴史を教えることで、出口も幅広くなるのではないか。

- ・ 染色に関して、江戸小紋、江戸友禅、浴衣なども日本の中では、後継者が不足している。デザイン科は倍率が高過ぎて入れない状況がある。伝統工芸については、既存の学科のアレンジメントで対応しても良い。
- ・ ITの専門科は出口ニーズが大きい上に、人材不足が顕著である。
- ・ 高校生レストランと同様の取組は、既に農業高校の食物科で実施している。ただし、農業高校の取り組みは小規模なため、設備面が心配である。
- ・ 農業高校の調理師養成課程は免許を取得でき、倍率が高い。一方、教員の確保や、法律に則った施設設備が必要なため、新規設置には難しさもある。
- ・ 家庭科分野全体としては就職先も進学先も減少しており、食の分野にのみ可能性がある状況である。服飾の分野は対応する大学もほとんどない。
- ・ 看護、保育、介護については、福祉科との連携のなかで、学科の新設や増設を考えることもできる。
- ・ 園芸高校食品科の調理コースでは、専門学校とのダブルスクールで、卒業と同時に資格を取れる。高校だけで食物科を運営する場合、教員の要件が厳しいため、専門学校との連携を検討しても良いと思う。

(3) 商業科に関する検討

- ・ 商業科という名前を変えることを検討してはどうか。
- ・ 求人倍率があっても、生徒の就職先として望ましいとは限らない。
- ・ 商業高校は一番潰しがきくと選ぶ生徒もおり、また、資格についても明確な意識がないまま勉強している生徒もいる。
- ・ 高校入学後に、就職、進学のどちらでも選択できると考える生徒が半数程度存在している。
- ・ インターンシップにおいて、事務関係の仕事では企業の機密や顧客の情報管理に関わるため、高校生に任せることは難しいと言われている。
- ・ デュアルシステムを実施するのであれば、情報処理、マーケティング、販売ではなく、商品企画やゲームの企画のような領域が良いのではないか。
- ・ コミュニケーション能力や語学の強化が良いのではないか。
- ・ 商業のデュアルシステムに関し、協力的な業種や企業は少ないと思われる。
- ・ 商業科で「サービス」という視点を強化して、魅力を高められないか。
- ・ デュアルシステムでは、大きな商業施設の店舗計画から始まり、ただ物を売るだけではなく、仕入れて計画的に販売し、ときには大手と連携するような全般の企画に携わることができれば、おもしろいことができると思う。
- ・ これまで日商一級をとっている商業高校もあるが、商業高校で取れるのは、「資格」ではなく「技能検定」であり、そのまま職業になるものではない。

(以上)